

MACC通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第40号

2017年3月31日発行

《主な内容》

- ・「第3回荒川区新製品・新技術大賞」で7件の受賞が決定～うち6件をMACC会員企業が受賞～
- ・クラウドファンディングの基礎知識 VOL.4
- ・新会員紹介
- ・MACC10周年記念交流会を開催しました

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

「第3回荒川区新製品・新技術大賞」で7件の受賞が決定 ～うち6件をMACC会員企業が受賞～

区が実施した「第3回荒川区新製品・新技術大賞」で7件の受賞が決定し、3月11日に開催された「第38回荒川区産業展」の会場で表彰式が行われました。今回は、区内企業の16社から19件の応募があり、その中から最優秀賞(荒川区長賞)をはじめ、優秀賞3件、入賞3件の計7件が選ばれ、そのうちMACC会員企業6社が受賞しました。

～「第38回荒川区産業展」(3/11)で表彰式～

「荒川区新製品・新技術大賞」は、区内企業のイノベーション機運を盛り上げ、「モノづくりの街あらかわ」の振興・発展を図る目的で、平成24年度から隔年で実施している表彰制度です。

第3回を迎える今回の結果を受け、特別審査委員長の小宮山氏(東京大学第28代総長・三菱総合研究所理事長)からは、「多様な価値観のもとに主体的に動く中で、知恵やビジネスが生まれ地域が活性化。今後とも、中小企業の新製品開発などの開発機運を高めることが、地域経済ひいては社会発展に寄与する」との講評がありました。

今回、MACC会員企業6社の受賞した新製品・新技術の概要は次のとおりです。

【最優秀賞(荒川区長賞)】

松田金型工業(株)(西尾久5丁目)の「高速回転可能な樹脂製ファンを実現する2色成形金型」

(概要)1つの金型内で、一次成形と二次成形を一体成形することで、複雑な形状の高機能の樹脂製ターボファンを製造できるようにしたものの。

一体成形することで、接着、溶着などが不要になり、羽根の形状の多様化が可能になるため、作業工程の効率化やコスト削減にもつながり、電化製品など多様な分野に活用されることが期待できる。



2色成形金型



受賞の喜びを表す
松田正雄・会長



受賞企業の代表と審査委員の記念撮影
(前列中央は西川太一郎区長)

【優秀賞】

精電舎電子工業(株)(西日暮里2丁目)の「超音波フードカッター」

(概要)超音波により、刃物部分を超高速微細振動させることで、ケーキやクッキーなどのスイーツを型崩れを抑えながら簡単に切断できる。うえ、刃への食材付着を低減させて切れ味を向上し、刃を固定した状態で柔らかい生地を切断できる。不良廃棄食品を大幅に削減でき、安全面にも配慮しており、今後の製品展開が期待される。



超音波フードカッター



表彰を受ける
グループマネージャー
山本泰裕氏

【優秀賞】

高六商事(株)(西日暮里2丁目)の「環境保全と異物混入防止を高精度で実現する革新的塗膜剥離技術の実現」

(概要)廃プラスチックから良質な再生品を作るには、付着した金属などを取り除くことが必要だが、本技術は自動車バンパーの塗膜を薬品による溶解処理でなく、環境にやさしい物理的手法で剥離する新技術。再生プラスチックへの塗膜の混入を防ぎ、99.9%以上剥離でき、バンパーのリサイクル率向上、温室効果ガスの発生量の削減にも貢献する。



塗膜剥離装置



表彰を受ける
壽山實常務取締役

【入賞】

志幸技研工業(株)(西尾久5丁目)の「液体移送システム(ソーラーポンプ)」

(概要)可搬型の太陽光パネルと揚水ポンプを組み合わせ、雨水などの液体を移送するシステム。

持ち運びが容易で、操作も簡単のため、消防車の入れない住宅地域に配置したり、緊急時、災害時に消火用水、生活用水などの給水に活用することができる。防災以外でも、雨水の屋上への揚水に緑化、送電ケーブルの鉄塔ピット内の揚水など、様々な活用が期待できる。



ソーラーポンプ



表彰を受ける
吉川裕代表取締役

【入賞】

(株)国立(南千住6丁目)の「スピーカーシステム(Tuned by T-LOOP+インシュレーター)」

(概要)販売提携しているタイムドメイン社のスピーカーに独自のチューニングを施し、エポナイト素材のインシュレーターと組み合わせたシステム。スピーカーとインシュレーターを球状の「点」で支持して、音の反射振動を軽減し、振動を複雑に拡散させることで、音響が立体的になり、ボリュームを大きくすることなく、高い音質を楽しむ。MACC会員企業の(株)日興エポナイト製造所、(有)中央バフ製作所が協力した。



スピーカーシステム



表彰を受ける
関根國哲代表取締役

【入賞】

(株)アポロ製作所(西日暮里1丁目)の「HORATIO」

(概要)厚みのある立体印刷を何度も塗り重ねる「マッスルプリント」という特殊印刷技術により骨組みを形成したランプシェード。従来のランプシェード



HORATIO

の骨組みは、木やプラスチックなどだが、本製品はポリエステルにマッスルプリントを20回前後塗り重ねることで、強い腰を持たせ、繊細な形をつくり、自由な色彩を表現することを可能にした。デザインはドイツ人デザイナーが考案し、間接照明が普及している欧州調に特徴がある。



表彰を受ける
白井健一代表取締役社長

クラウドファンディングの基礎知識 VOL.4

クラウドファンディングの基礎知識も最終回となりました。今回は、資金提供者に人気のプロジェクトについて迫ります。クラウドファンディングには、さまざまなカテゴリー(分野)からのファンド(資金)の募集があります。芸術、製品、ゲーム、報道、食品、ファッション、映画、出版、スポーツ等です。

ファンド募集のプロジェクトを見始めたところ、気になるプロジェクトがいくつかありました。例えば、「芸術」のカテゴリーのなかに「若手アーティストを応援するフリーペーパー、隔月刊He-art 最終号を発行したい」というファンド募集がありました(図表1)。雑誌「He-art」は、2012年から若手アーティストの紹介をするためにインタビューを記事にしたフリーペーパーを発行してきましたが、効率が悪く経費がかさみ廃刊にせざるを得なくなったということです。通常であれば、そのまま事業を止めてしまうのですが、何人かのインタビュー記事の残りを記事にして最終刊としたいという趣旨でした。オールオアナッシング方式(目標額が集まったらプロジェクトがスタート)をとり、30万円の募集目標に対して36万円と無事成功しています。廃刊となる雑誌社に資金が集まるというのは、驚きです。おそらく、根強いファンがいたということでしょう。

図表1

キャンプファイヤー

(<https://camp-fire.jp/projects/view/21191>, 《visited at 20170311》)



この他、芸術のカテゴリーに「チアキコハラ「カクメイ ハグちゃん」全長2メートルフィギュア制作プロジェクト」がありました(図表2)。チアキコハラ氏は、1986年生まれ、2008年にユニクロのTシャツコンペで「草間彌生賞」を受賞したことからアーティストとして活動を始めたようです。オリジナルの絵画等がリターン(報酬)となっており、アーティストの希少な作品が手に入ることからマニアには非常に魅力的です。このプロジェクトもオールオアナッシング方式で100万円の募集に対して171万円と成功しています。このように芸術家等の小規模なファンドにも資金が集まります。小規模な資金収集の仕組みとしてクラウドファンディングは、優れた仕組みであるといえるでしょう。

図表2 チアキコハラ氏のプロジェクト

キャンプファイヤー

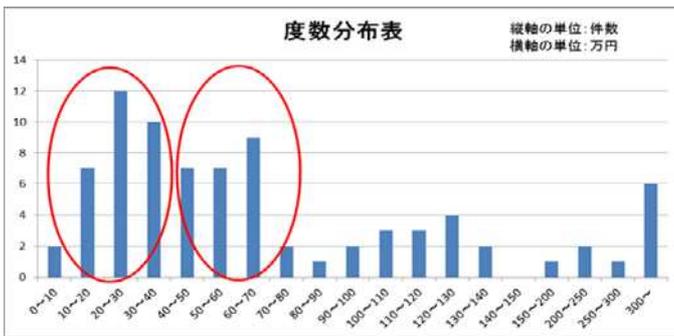
(<https://cdn.camp-fire.jp/media/filter//img/52b1524c-84f0-473c-8929-088d0a804936.png>, 《visited at 20170311》)



さて、データを通してどのようなプロジェクトが成功しているのかについて見ていきます。参考とするのは、業界大手のキャンプファイヤーとマクアケです。そして、対象のカテゴリーを「製品」とし、そのうち、オールオアナッシングで成功したプロジェクトに焦点を当てました。なお、この2社を選んだ理由は、プロジェクト件数が他社に比して多

かったからです。ちなみに、両社のプロダクトに関わる成功プロジェクトの件数は、キャンプファイヤーのプロジェクトは131件、マクアケが542件でした。

図表3は、キャンプファイヤーが公開している「製品」プロジェクトのうち成功したプロジェクト81件のグラフです。同社の成功プロジェクトのうち集まった金額が最も多いのは、20 - 30万円であり、続いて60 - 70万円となっています。



MACCプロジェクト新会員紹介！！

このコーナーでは、新たにMACC会員となられた企業を紹介していきます。今後の展望やMACCプロジェクトに期待することなどをそれぞれ伺ってみました。

✦ 秋元ステンレス工業株式会社 ✦ (荒川区西尾久8-40-6 <http://www.a-s-k.co.jp/>)

・平成28年10月入会・創業 昭和5年・資本金 1,000万円



代表取締役社長
秋元 幸雄 氏

秋元ステンレス工業株式会社は、従業員数21名の、業務用厨房機器(作業台、シンク、ガス器具等)の設計・製造・施行・販売を取り扱っている会社です。

荒川区三河島にて始めた飲食店用道具の製造を皮切りに、創業87年を迎える老舗企業です。焼物器(ガスを熱源とするもの、電気を熱源とするものなどの特注物)を得意としており、近年は、厨房機器関連の展示会に多数出展するなど、幅広く活躍の場を広げています。

今後の展望として、大手厨房メーカーにできない特殊品目(焼物器等)を確かな技術と豊富な経験をもとに、これからの時代にあった商品を考えたい、オンリーワンを目指したいと意欲的です。

また、MACCプロジェクトには「商品開発に関する科学的、または学術的な面において相談・アドバイスをいただきたい」と期待を寄せています。

✦ 有限会社成貢紙工 ✦ (荒川区東日暮里4-26-13 <http://www.seiko-shiko.jp/>)

・平成28年10月入会・創業 昭和34年・資本金 400万円



代表取締役社長
山田 善之 氏

有限会社成貢紙工は、従業員数8名の、断裁/打ち抜き/ビク抜きなど、紙・段ボールだけでなく塩ビ加工なども手掛ける紙製品の加工専門会社です。

物が溢れる現代、カレンダーなどデザインだけでなく、形にこだわりたいお客様のニーズに“熟練の技”で対応してくれます。

そして断裁、打ち抜きの専門会社として、今後もよい加工ができるよう日々精進し、小ロットや短納期まで、お客様のニーズにあった加工づくりを常に目指しています。

今後の展望として、山田社長は、御年87歳。今後も元気の良い、生き残れる会社を目指して、後を引き継いでくれる“後継者探し”にも意欲を示しています。

また、MACCプロジェクトには「常に新しい風を肌で感じ、一步一步確実に前進できる企業を目指すべく指導をお願いしたい!」と期待を寄せています。

✦ 有限会社桐山製作所 ✦ (荒川区東日暮里2-31-11 <http://www.kiriyama.co.jp/>)

・平成28年12月入会・創業 昭和23年・資本金 300万円



代表取締役社長
桐山 時男 氏

有限会社桐山製作所は、従業員数18名、昭和23年開業の理化学ガラス機器製造・販売メーカーです。主に実験用のガラス器具、装置作りを主体とし、高いスキルの加工技術を持った会社です。すべての製品は、自社ブランドで、企画から設計、製造、販売まで行っていて、少量多品種が特徴です。実際の実験を想定し、自社ラボで稼働実験を繰り返し最適なガラス管、形状を求めて製作。大型装置から摺り合わせジョイントなど細部に至まで製作現場やユーザーからの提案をもとに改良、進化を続けています。

今後の展望として、理化学ガラスの製造技術を活かし、少量多品種の一般民生用製品の提案を展開して行きたいと意欲を示しています。

また、MACCプロジェクトには「技術の多角的な可能性を模索して、新たな目線で可能性をアドバイスしていただきたい」と期待を寄せています。



代表取締役社長
後藤 晋一 氏

・平成29年1月入会・創業 平成22年・資本金 100万円
後藤梱包企画株式会社は、従業員数2名で、企業のPR用プレゼント商品・賞品のセット梱包・発送、メディア配信リリース等の封入・発送、また、ECモール(楽天、Yahoo)に出店しているクライアントの商品保管・在庫管理、購入された顧客(個人・法人)への商品梱包・発送を主な業務としています。また、昨今、何かと話題に上がる個人情報の取り扱い業務(B to C)が大半を占めるため、創業以来「プライバシーマーク(Pマーク)」も取得しています。

今後の展望として、「“もっと”人の為に」をモットーに、クライアントに役立つ情報提供、及び、営業活動を積極的に展開し、クライアントと共に「お客様」となるような、相互関係を築ける「サービス業」を目指したいと意欲を示しています。

また、MACCプロジェクトには、プロジェクトで開発・販売された商品のPR担当をしたいと考え、今までにMACC会員になかった「新しい風」として認めて頂き、サービス業の新しい<モノ>を見つけていきたいと期待を寄せています。

MACCプロジェクト10周年記念交流会を開催しました

MACCプロジェクトの事業開始10周年を記念して、2月10日に「MACCプロジェクト10周年記念交流会」を、区役所地下1階「レストランさくら」で開催しました。

～10年のキセキ～そして未来へ！

MACCプロジェクトは、モノづくり産業を核にした地域経済の振興・発展を目指して平成18年度にスタート。区内企業、支援機関、金融機関、大学などによる「顔の見えるネットワーク」を軸に、新事業の創出や新製品・新技術開発に取り組み、今年度で10周年の節目を迎えました。

この10年間に、MACCの事業に参画した会員企業は約100社に増え、その中から若手経営者・後継者で構成する「あすめし会」、「ニアス会(第2あすめし会)」のほか、女性経営者による「サンアス会」も発足し、活動を強めています。

また、事業活動の中から生まれた「MACC認定製品」は20点を超え、産学公金の連携による新たな事業展開や、大型展示会への共同出展など「モノづくりの街あらかわ」を広くPRする活動も積み重ねています。



本交流会には、MACC会員をはじめ、各支援団体等これまでMACCプロジェクトに深く関わってきた70名余りが参加し、大盛況となりました。

まずはじめに、MACCの事業活動に貢献した区内企業の経営者らに区から感謝状が贈られました。(表1)

その後スライドで、これまでの10年の軌跡を振り返りつつ、MACCコーディネータ4名のプレゼンも行い、区内産業・地域経済の未来を拓く思い等、新たな10年に向けてより充実した事業展開を確認し合いました。

表1 感謝状贈呈企業(企業名五十音順)

(株)アートランド	(株)大洋技研
旭工業(株)	(有)武井工業所
(株)アポロ製作所	(有)中央パフ製作所
石川金網(株)	(株)東京ベル製作所
金澤鞆製	(有)徳栄商事
(株)国立	(株)日興エポナイト製造所
志幸技研工業(株)	(有)箱田織物工場
(有)スガワラ印刷	松田金型工業(株)
(株)ストロング	(株)マツダ自転車工場
(有)成貢紙工	新ニアス会(社長塾)
精電舎電子工業(株)	サンアス会(女性経営者の会)
大東工業(株)	

連載～その22～

牛山博文の！ 毛～ひと工夫！

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。



MACCミドルコーディネータ
早稲田大学ビジネススクール特別研究員
牛山博文

新年度に向けて

10周年を迎えたMACCプロジェクト10周年記念交流会で29年度に向けての支援についてお話ししましたが、少々舌足らずの感があったので、今回は改めて今後の私の支援の方向性など書かせていただきます。

1.社長のリーダーシップ

“新しい何か”を始めるためには、第一に情熱に裏打ちされた社長の強いリーダーシップが必要です。企業支援もリーダーシップがあってこそ成就すると考えています。リーダーシップ無しに新しいことを開発することは出来ません。何のために会社を経営するのかという根本的な理念に基づきモチベーションを維持してほしいと思います。

何故わざわざこのようなことを書くかという点、障害があると“諦める”社長さんが多いと感じるからです。諦めないで“しぶとく”頑張りましょう。ここが一番大事なところですよ！

2.経営戦略・経営目標とリンクした 事業目標の明確化

新製品や新技術・新ビジネス創出について“事業

目的という機能”を中心にアイデアを一緒に考えましょう。何がしたいのか・なすべきことは何かが明確になれば、あとは計画的に事をすすめるだけです。

3.現場改善、業務革新、情報システム革新の 三位一体展開

実行においては“現場重視の技術的な視点”で行ないたいと考えています。基礎体力がなければ、新しいことに挑戦することは出来ません。ここもしっかり確認しながら進めます。

4.価値観の共有化

支援実行に当たって価値観を共有してはじめて有効な支援となると考えています。是非次のような視点、視座で取り組んで頂きたいと思います。

- ・生産者指向 顧客指向へ
- ・部分最適 全体最適へ
- ・網羅的アプローチ 重点指向
- ・手段先行 目的指向へ
- ・柔らか頭の発想（＝固定観念・既成概念打破）

今年度の支援の方向性について書かせて頂きました。是非一緒に頑張りましょう。29年度もよろしくお願いたします。



『MACC10周年記念誌』・『MACCプロジェクトパンフレット 第7版』・『平成29年度版 企業支援メニュー』が出来ました。ご希望の方は、産業経済部 経営支援課 産業活性化係まで！！

MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL.39



「荒川100年企業物語」
MACCシニアコーディネータ 豊泉光男



春のたよりが会社の玄関まで届く時になりました。梅の花、そして早咲きの桜も出足が早く、私達にワクワクをプレゼントしてくれます。最近、何人かの企業経営者からこのワクワクをいただきました。埼玉県のD工業や東京都のB工業ともに「100年企業」をめざすビジョンを経営計画に落とし込み、今日の革新に努力しています。経営者の発する「100年企業」の言葉はワクワクがひしひしと伝わります。言葉は魂を持つと言います。いわゆる「言葉(ことだま)」かもしれません。



ここで100年企業について考えてみます。

- 1、日本は世界一100年企業が多い。
- 2、現在、日本の100年企業は全国に25,000社あり世界の過半数を占めています。
- 3、県では京都が100年企業の比率が最も高く企業数の3.9%を占めています。

このゴーイングコンサーンはどのような経営によって達成できるのでしょうか。一つは創業時から持ち続け忘れてはならない不易、経営理念がこれにあたります。何のために、誰の為に企業経営を行うのか。自社が企業経営で一番大切にしている事は何か。企業経営の背骨の部分です。創業者が一番伝え守り続けて欲しい事で、企業経営の守りの部分です。D工業の後継社長もB工業の社長も先代を尊敬し、志を大切に受けつぎたいと言葉の端々に感じられ清々しいものでした。もう一つは時代とともに良くも悪くも変化する外部環境に適応する流行です。企業経営は時代適合産業である所以で、事業は時間

がたつといくら立派な経営者であってもそのままでは立ち行かなくなります。なぜなら、マーケットは生き物でありそこにいるお客様一人一人も変化して行きます。時にはゆっくり、時には激しく、ずっと留まる事はありません。ふと気が付いてみると過去に安住した自社のみが留まっているのです。昔からのよしみと言ってもマーケットや顧客は容赦なく流れていきます。その流れは最初気づかない程ゆっくりですが気づくとアツト言う間に通り過ぎ、取り残されます。「老舗とは常にイノベーションを起こし続ける企業を言う。」(トミー)「事業承継とは代々創業と言える。」(トミー)企業経営の攻めの部分です。

D工業もB工業もこれから「100年企業」になるには今のままでは生き残れないことを知っています。今から50年70年先の「100年企業」のためにやるべきことは何か。それを10年目標、5年目標、そして今年の経営計画書に記載し、全社一丸となって立ち向かっていく。これら経営者の姿を目にし、トミーも自らが社長に就任し、黒字企業化、新商品新事業開発、海外事業展開を無我夢中で行っていた時代を思い出しました。

最後になりましたが、法政大学の久保田教授の見解をご紹介します。長寿企業の経営の特徴は

- 1) 明確な企業理念や経営理念をもち順守している。
- 2) 長期的な視点に立った経営。
- 3) 伝統の継承の一方革新に取り組む。
- 4) 従業員を大切にしている。

とありますがこれらは100年企業だけでなく、全ての企業経営に共通することであると言えますね。

<発行> 荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

登録番号(28)0009-4号